

コミュニティヘルスインターンシップ (CHI) (地域医療早期体験実習)

科目責任者 山内 かづ代
学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

現在、医学教育ではプロフェッショナリズムの醸成が最重要課題のひとつになっている。医師のプロフェッショナリズムとは「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく」ものであると、令和4年度版改定版 医学教育モデル・コア・カリキュラムに明記されている。これが、医師として求められる基本的な資質・能力の第一に挙げられる。

本実習は最初のプロフェッショナリズム教育の場であり、本学病院・社会福祉施設・地域病院・特別支援学校などの現場を、医学部生と看護学部生がともに体験する事を目的としている。

病気や障害あるいは高齢になって生活を送っている方々とその家族に触れ、相手の心を理解し信頼関係を築くことが大切である。本実習の経験が他者を思いやる心を育み、人間性豊かな医師への第一歩になることを願うものである。

II. 担当教員

医学部CHI担当教員

看護学部CHI担当教員 医学部教員

看護学部教員

大学病院指導担当者 学外施設指導担当者

III. 一般学習目標

- 1) 医療の原点を理解し、技術だけの医療従事者ではなく人間性豊かな社会性のある医師としての心構えを身につける。
- 2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築き、患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。
- 3) 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。
- 4) 地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の各分野間および多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- 5) 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。

IV. 学修の到達目標

- 1) 将来医師として、的確な判断・良好なコミュニケーションの重要性を学ぶ。
- 2) 医療機関、福祉施設、特別支援学校の1日の流れを理解し、積極的に行動して学ぶ。
- 3) 積極的なコミュニケーションを行い、信頼関係の構築について学ぶ。
- 4) 積極的に実習を行い、常に医療者としての視点を忘れないようにする。
- 5) 社会における適切な礼儀、マナー、言葉遣い、身だしなみを実践し時間厳守に努める。
- 6) 医学部の学生はすでに医療者の一員であることを自覚して、大学病院内では患者第一に考え、責任ある行動をとる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	6	5	金	6	コミュニティヘルスインターシップ ガイダンス	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	1, 3
2		29	月	終日	全体オリエンテーション・ガイダンス 学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	3, 4
3	6	30	火	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班）	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	3, 4,
4	7	1	水	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班） グループ別討議（医学部・看護学部学生混成班）	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	3, 4, 5
5		2	木	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班） グループ別討議（医学部・看護学部学生混成班）	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	3, 4, 5
6		3	金	終日	学外実習（医学部・看護学部学生混成班） 学内実習（医学部・看護学部学生混成班） グループ別討議（医学部・看護学部学生混成班）	山内 かつ代 玉村 尚子 医学部CHI担当教員 看護学部CHI担当教員 医学部教員 看護学部教員	3, 4, 5

VI. 評価基準（成績評価の方法と・基準）

- 1) 各実習レポート・実習態度、指導担当者評価、各班の実習報告書その他により評価を行う。
- 2) 実習を欠席した者と60点未満の者については追・再実習を行うことがある。
※評価については後日、オリエンテーション等で説明をする。

【アンプロフェッショナルな態度への対応】

地域医療学ならびにCHIにおける特筆すべきアンプロフェッショナルな態度は、以下の5点をいう。いずれかに該当する場合は、減点または単位認定を保留とする。

- 1) 講義・演習・実習への無断遅刻（一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす）
- 2) 講義・演習・実習への無断欠席（一切認めない）
- 3) 講義・演習・実習に臨む姿勢が極端に消極的または医師を目指す者として不適切と認められる場合
- 4) 試験・課題における不正行為（本学医学部試験及び成績評価に関する規程を準用する）
- 5) 課題・レポートにおける剽窃（盗用）およびそれに準ずる行為（同上）

VII. 教科書・参考書・AV資料

オリエンテーション時（または必要に応じて）に資料を配布する

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：山内かづ代 (k-yamauchi@dokkyomed.ac.jp) または教務課が窓口になり随時対応する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験は実施しない。

課題レポート（実習前）、レポート（実習後）は引率教員による添削後に、学生に返却するので添削内容を参照して再提出する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前：レポート（実習前） 事後：レポート（実習後）

合計：事前学習2時間、事後学習3時間

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-01：誠実さ

PR-02-01：思いやり

PR-02-02：他者理解と自己理解 PR-02-03：品格・礼儀

PR-03-01：教養

GE-01-03：患者中心の医療

CM-01-01：患者・家族への適切なコミュニケーションスキルの活用 CM-01-02：職種間コミュニケーション

IP-01-01：患者中心の保健医療福祉

IP-01-02：患者の立場の尊重と苦痛への配慮 IP-02-04：他職種の理解